



カメラ・ルポ

## ルート219に行く

— 国道219号線・熊本市から県南部まで —

## おとなは きらい

ましま ひろ美

（九歳）

うちのおとうさんは二年のとき死んだ。にくらしいことがあった。とうさんが交通じこにあったとき、わたしはびっくりした。ベッドでねてたら十時ごろおこされた。

とうさんのびょういんについても、みせてくれない。かあさんはかぜをひいていた。「とうさんは、かあさんのかぜをひかせるみたいだ。死んじゃえ」—小さいときは、とうさんがきらいだった。わたしは女だからだろう。「そんなこというとパパ死んじゃうよ。」

つぎの日、学校に行けないのがいやだった。つぎの日に、おとうさんのおそうしきと聞いてビックリした。おとなにインチキをいわれた！しまった。おとうさんの体は、まだだいじょうぶといていたのに。それがなんでもこの間の十時ごろのことなんだから。

おぼうさんのおきようがおわったら、二年一組のせいとから、はげましのおたよりがきていた。

夜もおきようを聞いた。あんまり長すぎると思って、ぼうさんがにくらしかった。

やさしいとうさんも、ここにはいない。でも天国で「おらは死んじゃったダー」て歌っているだろう。いや、しゃべられなくて、肉もない、気のどくな男だろう。

おうだんほどうを歩道橋にしたい。自転車のじことしては、自転車道をつくってみたい。

今では、とうさんをころした男が、じつににくらしい。あんなのころしちやえ。

— 原文のまま —

交通遺児作文集「天国にいるおとうさま」から抜粋